

2022年（令和四年）

9月23日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

9/8～9/14のNYMEX・WTI先物市場は、83.54～88.48ドルの範囲で推移した。

9月15日は、積極的な金利引き上げ継続による景気後退懸念から、反落した。また、前日の国際エネルギー機関（IEA）の2022年の需要見通しの下方修正も意識された。10月限の終値は前日比3.38ドル安の85.10ドル。

週末16日は、イラクのバスラ港で原油流出事故があり、供給懸念から買いが入ったものの、その後、輸出再開の発表で鎮静化した。依然、先行き需要の減少懸念で上値は重く、ほぼ横ばいだった。10月限の終値は前日比0.01ドル高の85.11ドル。

週明け19日は、米連邦準備制度理事会（FRB）の連邦公開市場委員会（FOMC）開催を前に、積極的利上げ政策維持観測に基づく景気後退懸念や一層のドル高進行予想から、売りが先行したが、その後は、値ごろ感や持ち高調整の買いが入り、OPECプラスの8月産油量が、生産上限を358万b/d下回ったとの報道もあり、続伸した。10月限の終値は前日比0.62ドル高の85.73ドル。

20日は、積極的利上げ継続観測が拡大、景気減速懸念や米株式市場の下落に伴う投資家のリスク回避姿勢、ドル高進行に伴う原油先物の割高感から、3営業日ぶりに反落した。10月限の終値は前日比1.28ドル安の84.45ドル。

21日は、プーチン大統領の部分的国家総動員令の署名、核兵器使用の可能性の示唆発言による地政学リスクの高まりで、買い先行で始まったが、米国の積極的利上げ継続観測による需要減退懸念の高まりで、売りが優勢となり、続落した。この日から、取引の中心限月となった11月限の終値は前

日比1.00ドル安の82.94ドル。

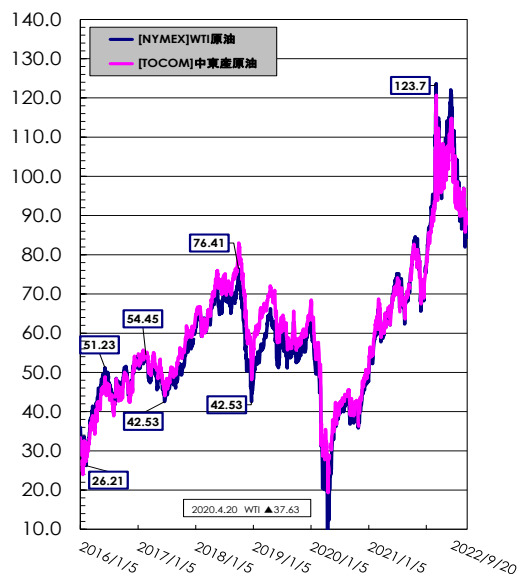
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（11月渡し）は、9月8日～14日の間、89.00～93.70ドルの範囲で推移した。9月15日93.20ドル、16日91.80ドル、20日92.40ドル、21日92.70ドルで推移した。

為替は、9月8日～14日の間、142.54～144.49円の範囲で推移した。9月15日143.34円、16日143.11円、20日143.28円、21日143.73円で推移した。

そのような中で、9月20日時点の価格は、ガソリンが前週比0.4円の値下がり、軽油も同0.4円の値下がり、灯油は3円の値下がり（18%ベース）であった。ガソリンは3週ぶりの値下がり、軽油も3週ぶりの値下がり、灯油も3週ぶりの値下がりであった。ガソリンの全国平均価格は169.7円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は36.7円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/11～9/17	3,087	▼ -85 ▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	80.2	▼ -2.2 ▲ -
	原油在庫量 (千kl)	9/17	9,782	▲ 289 ▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	9/20	89.23	▲ 0.27 ▲ 17.8
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	9/19	85.73	▼ -2.05 ▲ 15.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月下旬	111.73	▼ -0.63 ▲ 37.95
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	94,563	▲ 126 ▲ 43,566
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	134.57	▼ -0.94 ▼ -24.68
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/20	144.28	▼ -0.46 ▼ -33.71

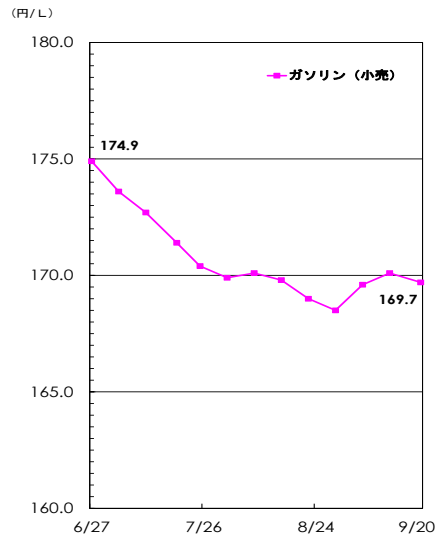
(\$/b)



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/11 ~ 9/17	901 ▲ 62	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	797 ▲ 59	▲ -	
	輸出	"	100 ▲ 99	▲ -	
	在庫	9/17	1,597 ▲ 3	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/13 ~ 9/19	76.2 ▼ -1.5	▲ 9.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/13 ~ 9/19	78.6 ▼ -0.4	▲ 12.6
		(TOCOM/中部)	9/16	75.0 ▼ -2.1	▲ 8.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/20	169.7 ▼ -0.4	▲ 11.3	

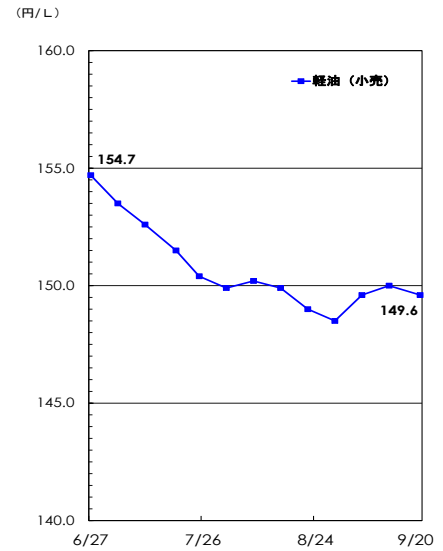
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

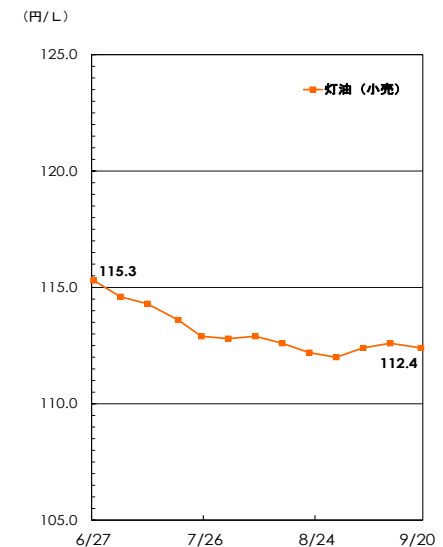
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/11 ~ 9/17	726 ▲ 6	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	555 ▼ -43	▼ -	
	輸出	"	216 ▲ 120	▲ -	
	在庫	9/17	1,422 ▼ -44	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/13 ~ 9/19	76.5 ▼ -1.1	▲ 8.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/13 ~ 9/19	79.4 ▼ -0.5	▲ 11.0
		(TOCOM/中部)	9/16	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/20	149.6 ▼ -0.4	▲ 11.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/11 ~ 9/17	114 ▼ -46	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	36 ▼ -21	▼ -	
	輸出	"	11 ▼ -2	▲ -	
	在庫	9/17	2,108 ▲ 67	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/13 ~ 9/19	77.5 ▼ -0.8	▲ 10.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/13 ~ 9/19	78.7 ▲ 0.4	▲ 13.5
		(TOCOM/中部)	9/16	77.0 ▲ 0.0	▲ 10.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/20	112.4 ▼ -0.2	▲ 14.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

今週の石油先物市場は、ウクライナ情勢の緊張、イラクのバスラ港における原油流出事故など上昇要因もあったが、積極的な金利引き上げ継続観測による景気減速懸念の拡大で、WTI終値は9月15日85.10ドルから、21日の82.94ドルとやや軟化した。

9月21日発表の16日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫情報は、原油在庫が前週末比110万バレル増と市場予想(同220万バレル増)を下回る取り崩し、また、ガソリン在庫は同160万バレル増(市場予想:同40万バレル減)、中間留分は120万バレル増(市場予想:同40万バレル増)で大きな影響はなかった。

EIAによると、9月19日時点で、ガソリンの小売価格は、前

週比3.6セント値下がりの1ガロン3.654ドル(138.9円/バレル)と14週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比6.9セント値下がりの1ガロン4.964ドル(188.7円/バレル)と3週連続の値下がりであった。

ベーカーヒューズ社によると、9月16日時点の米国国内稼働石油掘削装置は前週比8基増の599基と3週ぶりの増加となった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年9月11日～9月17日に休止したトッパー能力は3.5万バレル/日で、前週に対して8.6万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は308.7万klと、前週に比べ8.5万kl減少。前年に対しては23.5万klの増加。トッパー稼働率は80.2%と前週に対して2.2ポイントの減少、前年に対しては6.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、A重油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/7.4%増、ジェット/32.2%増、灯油/28.8%減、軽油/0.9%増、A重油/8.2%減、C重油/4.7%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は21.6万kl(前週比12.0万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、A重油、C重油が増加、その他の油種で減少した。前年比では灯油、軽油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は79.7万kl(対前週8.1%増)と2週振りに増加した。ジェット10.1万kl(対前週33.3%減)、灯油3.6万kl(対前週36.3%減)、軽油55.5万

kl(対前週7.3%減)、A重油17.0万kl(対前週23.4%増)、C重油23.8万kl(対前週37.5%増)。

(単位:千kl)

	今週 (9/11 ~ 9/17)	前週 (9/4 ~ 9/10)	前週比	
ガソリン	797	738	▲ 59	(8%)
ジェット燃料	101	151	▼ -50	(-33%)
灯油	36	57	▼ -21	(-37%)
軽油	555	598	▼ -43	(-7%)
A重油	170	138	▲ 32	(23%)
C重油	238	173	▲ 65	(38%)
合計	1,897	1,855	▲ 42	(2%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月17日時点の在庫は軽油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては全ての油種で減少となった。

ガソリンは159.7万kl、前週差0.3万kl増。前年に対しては9.3万kl少ない。

灯油は210.8万kl、前週差6.7万kl増。前年に対しては26.9万kl少ない。

軽油は142.2万kl、前週差4.4万kl減。前年に対しては11.0万kl少ない。

A重油は72.1万kl、前週差0.2万kl増。前年に対しては2.5万kl少ない。

C重油は177.0万kl、前週差2.3万kl減。前年に対しては27.8万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (9/17)	前週 (9/10)	前週比	
ガソリン	1,597	1,594	▲ 3	(0%)
ジェット燃料	863	811	▲ 52	(6%)
灯油	2,108	2,041	▲ 67	(3%)
軽油	1,422	1,466	▼ -44	(-3%)
A重油	721	719	▲ 2	(0%)
C重油	1,770	1,793	▼ -23	(-1%)
合計	8,481	8,424	▲ 57	(0.7%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月13日～19日の指標原油価格は前週比で値上がりし、為替レートも円安で、元売会社の原油コストは、1.0円値上がりしたものと見られる。

上記コストアップに先週の補助金額35.6円を加えたコスト上昇額36.6円に、補助金36.7円(計算上38.5円になるが、35円を超える値上がり分は半額補助)が支給されることから、

次週(9/22～9/28)の元売会社の実質的な卸価格は0.1円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月13日～19日の製品スポット市況は、9月6日～12日平均と比べ、海上と先物の灯油の値上りを除いて、他の取引・油種で値下がりした。

直近週(9/13～9/19)の陸上スポット価格平均値は、前週(9/6～9/12)比で、ガソリンは1.5円の値下がり、灯油は0.8円の値下がり、軽油は1.1円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(9/13～9/19)に、前週(9/6～9/12)比で、ガソリンは1.0円の値下がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油1.1円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.4円の値下がり、灯油は0.4円の値上がり、軽油は0.5円の値下がりだった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (9/13～9/19)	前週 (9/6～9/12)	前週比
	レギュラー	76.2	77.7
灯油	77.5	78.3	▼ -0.8
軽油	76.5	77.6	▼ -1.1

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値 [平均]]	今週 (9/13～9/19)	前週 (9/6～9/12)	前週比
	レギュラー	78.6	79.0
灯油	78.7	78.3	▲ 0.4
軽油	79.4	79.9	▼ -0.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/13～9/19実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.5	▼ -0.4	▼ -1.0
灯油	▼ -0.8	▲ 0.4	▼ -0.2
軽油	▼ -1.1	▼ -0.5	▼ -0.8
A重油	▼ -1.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月20日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円安の169.7円、軽油も同0.4円安の149.6円、灯油は18%ベースで同3円安の2,024円(1%ベースでは同0.2円安の112.4円)。ガソリンは3週ぶりの値下がり、軽油も3週ぶりの値下がり、灯油も3週ぶりの値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは3県、横ばいは6府県、値下がり38都道府県だった。全国最安値は宮城県162.0円、その次は埼玉県162.8円であった。他方、最高値は長崎県の182.4円だった。最も値上がりしたのは沖縄県(前週比0.9円高)、横ばいは京都府等6府県、最も値下がりしたのは北海道(同1.6円安)だった。

次回調査時(9/26)のガソリンの小売価格は、横ばいが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (9/20)	前週 (9/12)	前週比	直近高値
レギュラー	169.7	170.1	▼ -0.4	08/8/4 185.1
灯油	112.4	112.6	▼ -0.2	08/8/11 132.1
軽油	149.6	150.0	▼ -0.4	08/8/4 167.4

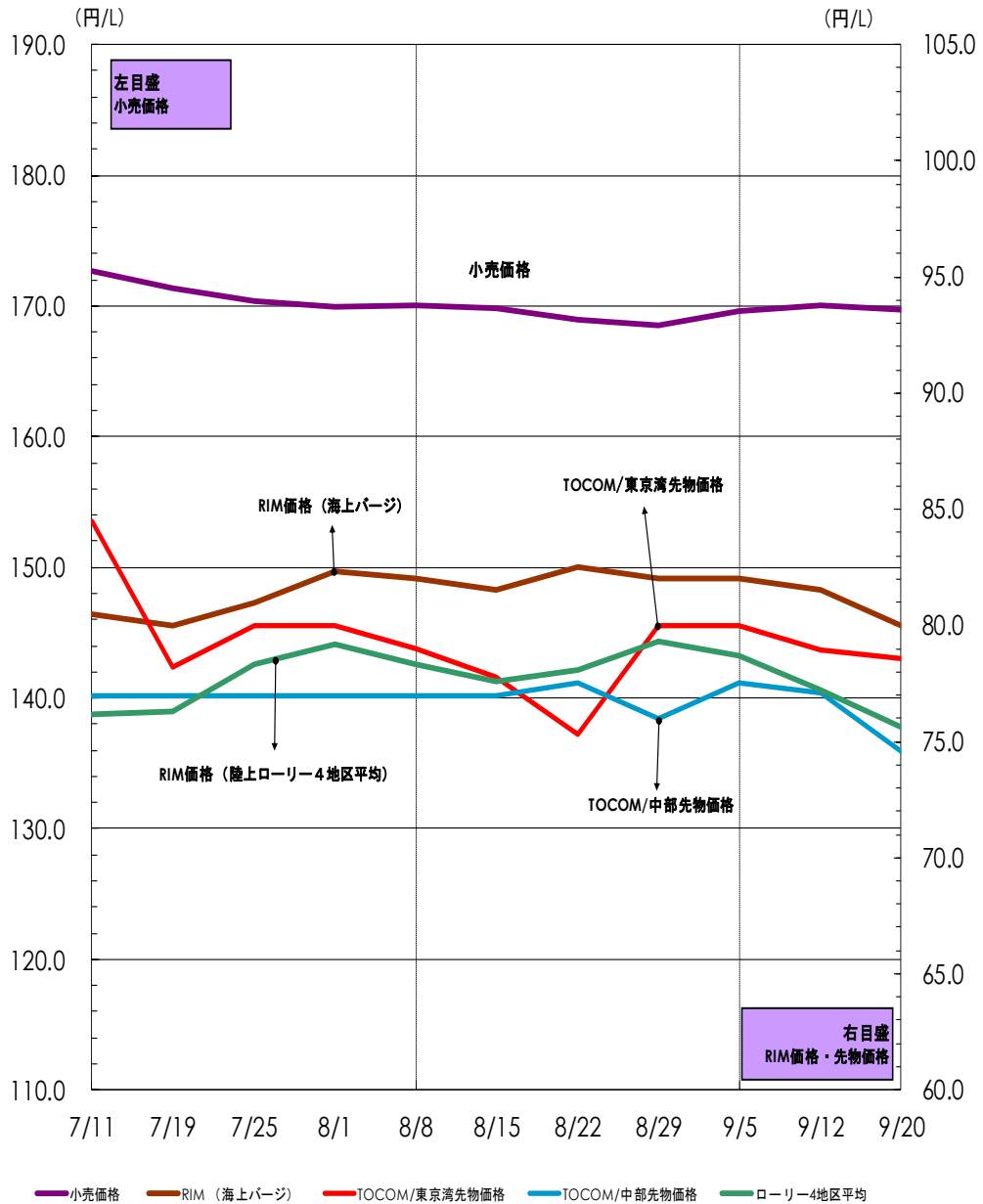
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/7/11 ~ 2022/9/20)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2022第25号) の公表は、9/30 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。